

2013(平成25)年度 法学既修者入学試験問題(8月試験)

刑 法

(90分, 総点100点)

試験開始の指示があるまで開かないこと

注意

1. 問題冊子は、表紙をふくめて4ページで、問題は1問ある。
2. 解答用紙は1枚配布する。解答は解答用紙に記入し、解答の末尾には、「以上」と明記すること。また、用紙が不足した場合には、追加の用紙を配布するので、挙手して監督者に知らせること。
3. 下書き用紙として、白紙を1枚配布する。ただし、下書き用紙の提出は認めないので、必ず解答用紙に清書して提出すること。
4. 解答用紙への受験番号、氏名記入は、監督者の指示を待って行うこと。また、「管理番号」欄は、大学側が使用するので受験生は記入しないこと。
5. 問題の内容に関する質問には、応じない。
6. 試験時間内の退場はできない。なお、試験中の発病等やむを得ない場合には、挙手により監督者に知らせ、その指示に従うこと。
7. 試験終了後は、監督者の指示があるまで、各自の席で待機すること。
8. 問題冊子及び下書き用紙は、各自で持ち帰ること。

甲は、知り合いのAから現金を奪おうと考え、長男乙（13歳、中学1年生）に対し、「Aの家に行って金を奪って来い。おまえは体格がいいので、覆面して包丁を突き付けて『金を出せ。』と要求すれば、Aは怖がって金を出すから。」などと言って、Aから現金を奪い取って来るよう指示した。乙は、そのようなことをすれば犯罪になると分かったので当初は嫌がったものの、甲が、「心配ない。大丈夫だ。奪ってきた金をお前にも少しあげるから。」などと言って説得し、予め用意していた覆面や包丁(刃渡り約17センチメートル)を乙に渡した。遊ぶ金に困っていた乙は、分け前の金をもらえるということですっかりその気になり、ある日の深夜、包丁を隠して1人でA宅に赴き、覆面を被ってA宅の窓から忍び込むと、物音に気づいて起きてきたAの胸元近くに包丁の刃先を突き付け、「金を出せ。」と要求し、Aは机の引き出しにしまっていた現金10万円を乙に渡した。甲は、自宅に戻った乙から現金10万円を受け取ると、そのうちの1万円を乙に渡し、残りを飲食代等に費消した。

このような場合における甲と乙の刑事責任について論じなさい。

余白

余白